

特集

この春、白石区に心強い 子育てサポーターが登場！

十カ月児健診の会場で絵本の読み聞かせ



今年の三月十四日から
事業がスタート

「おうちで絵本は読んでいますか」、「一冊お読みしましょうね」。赤ちゃんの十カ月児健診会場である白石保健センターで、三月十四日から絵本の読み聞かせ事業が始まりました。赤ちゃんへの読み聞かせを始めるのに適している時期は生後七〜十カ月とされています。言葉の意味は分からなくても、お母さんやお父さんなどの身近な人たちの語り掛けが、子どもの成長に大きな効用をもたらします。

健診会場では、診断や検査の待ち時間を利用して、読み聞かせボランティアが、一組一組の親子に声を掛けていきます。その場で、絵本の読み聞かせを体験してもらおうほか、絵本の良さを説明したり、読み聞かせに関する相談を受けたりもしています。

ボランティアグループ 「すてっぶ」の結成

この事業は昨年十一月から白石保健センターが中心となつて、子育て推進課白石センター（現・保健福祉サービス課）、区内の読み聞かせボランティアたちと連携をとりながら準備を進めてきたものです。

今年三月には、会場で絵本を読み聞かせたり、相談に乗ったりするためのボランティア「絵本読み聞かせの会すてっぶ」が結成されました。

四月現在の会員数は十四人。いずれも、区内各所で絵本の読み聞かせ活動に携わってい



新しく設置された書棚には厳選された約400冊もの絵本が勢ぞろい。対象年齢別に色ラベルが張られており、自由に取り出してご覧になれます

少子化・核家族化の進行や情報のはんらんなど、子育て環境の変化は、親たちに育児をめぐる不安をもたらしています。白石区では子どもたちが心身ともに健やかに成長できる環境をつくるとともに子育てに役立つ情報を提供しようとして、昨年秋から二つのプロジェクトの準備を進めてきました。

今月号では、区民のボランティアと区役所の共同作業によって、この春実現したこれらの取り組みを紹介します。